■ほつまつたえ　人の巻 29　たけひとやまとうちのあや【タケヒト ヤマト打ちの文】

【原文カタカナ訳】		【語義考察】		【漢字読み下し】	
	ヤマチケワシク		やまちけわしく		山道 険しく
スエタエテ	ノニシチマヒテ	すえたえて	のにしちまひて	末え絶えて	野にしぢまひて
スヘラキノ	ユメニアマテル	すへらきの	ゆめにあまてる	皇の	夢にアマテル
カミノツケ	ヤタノカラスオ	かみのつけ	やたのからすお	神の告げ	「八尺の烏を
ミチヒキト	サムレハヤタノ	みちひきと	さむれはやたの	導き」と	覚むれば八尺の
カラスアリ	オオチカウカツ	からすあり	おおちかうかつ	烏あり	老翁が穿つ (八尺烏)
アスカミチ	イクサヒキユク	あすかみち	いくさひきゆく	あすか道	軍 率き行く
ミチヲミカ	ミネコエウタノ	みちをみか	みねこえうたの	ミチヲミが	峰越えウタの
ウカチムラ		うかちむら		ウカチ村	

『ホツマツタヱ解読ガイド』

ホツマツタヱ　人の巻（２９～４０アヤ）

29 タケヒト（神武）大和（やまと）討ちのアヤ

タケヒト・大和討ち

神武東征

　飛鳥への山路は険しくて、時として分け入った道の末が絶えて消えてしまい、何日もさまよった挙句に同じところに戻ってきた辛い行軍でした。天皇（あまきみ）は、野に暮れて星降る夜のしじまに、岩根に身を横たえまどろむうちに、夢に天照神のお告げあり、「ヤタノカラスを道案内とせよ」と。

　目が覚めてみると、丁度目の前にヤタノカラスと言う翁が尋ねて来て、翁は飛鳥の嶺嶺を越えて道なき道を切り開いて軍を引導し、先陣を行く軍師ミチオミは、ヤタノカラスに従って嶺嶺をいくつも越えて、やっとウダのウガチ村にたどり着きました。

出典

ホツマツタエ（国立公文書館蔵）

秀真（ほつま）政傳紀（和仁估安聰訳述）

訳

高畠　精二